

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 約百万円の税金の重み

矢吹町立矢吹中学校 2年 喜多山 莉帆

私が税についての作文を書く事に悩んでいると、「税金って、日本という国に住んでいるから払う、会費みたいなものだよね。」と家族が言った。なるほど、でも私は税金という会費を払ってはいない。お金を稼いでいない中学生の私が払う税金は消費税ぐらいだが、それも家族からもらったお金で払っているので私が払っている税金はない。逆に、私が受けている税金はいくら位なのだろうかと思になった。

インターネットで調べてみると、中学生一人あたり、一年間で約百万円の税金が使われているそうである。こんなに高額な税金が使われている事にとっても驚いたが、予想外の金額で全くピンとこない。そこで、私が住んでいる矢吹町の令和4年度の教育費の中の、中学校費の予算額を調べてみた。すると、一年間の金額は、5,074万6,000円だった。この金額を令和4年度の矢吹中学校の全校生徒数で割ると、一人あたり約10万7,580円となった。つまり、矢吹町では、中学生一人に10万円以上支払ってくれているのだ。

あらためて考えてみると、学校生活でかかっているお金は、教科書代、給食費、先生方のお給料、水道代、電気代、部活にかかる費用、施設の修繕費などまだまだありそうで、町の予算の10万円では足りなそうだと感じてきた。残りの96万円は、国の税金を使ってくれているのだろう。なんだか申し訳ない気持ちになった。

年間百万円を一日あたりにするといくらになるのだろうか。中学校の授業日数は200日位なので、一日あたり、私にも約5,000円の税金を使ってもらっていることになる。この金額を調べていて、ある小説にあった欠席罰金の話が思い浮かんだ。その本には、英国は認められていない理由で子供が学校を欠席してしまうと、親が罰金を支払わなければならない制度があると書かれていた。父母それぞれに約1万円が請求されるため、約2万円を払わなければならない。読んだ時は、罰金の制度にも金

額の多さにも驚いたが、英国でも日本と同じ位かそれ以上に中学生一人にかかる税金があるとすれば、それを無駄にする行為に罰を与えるという事にも納得できた。

私の中学校生活は、年間約百万円の税金から成り立っている。もし、税金のない世界だったら、学年の始まりの4月に、家族に百万円をもらって登校する事になるのかもしれない。直接百万円を渡されたら、今よりずっと大切に使おうと強く思うだろう。税金制度のある現在は、直接学校にお金を払っていないだけで、税金という形で家族がお金を納めているのだ。この事を忘れずに、大切に学校生活を過ごしていこうと思った。